(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第6490111号
(P6490111)

(45)発行日　平成31年3月27日(2019.3.27)　(24)登録日　平成31年3月8日(2019.3.8)

(51)Int.Cl.		F I		
A47B 67/04	(2006.01)	A47B	67/04	A
A47B 87/00	(2006.01)	A47B	87/00	
B65D 6/06	(2006.01)	A47B	67/04	B
B65D 6/18	(2006.01)	B65D	6/06	
		B65D	6/18	C

請求項の数 2　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2017-2177(P2017-2177)
(22)出願日　平成29年1月10日(2017.1.10)
(65)公開番号　特開2018-110664(P2018-110664A)
(43)公開日　平成30年7月19日(2018.7.19)
審査請求日　平成29年10月11日(2017.10.11)

(73)特許権者　591054635
株式会社伸和
新潟県新潟市西蒲区金池１０番地
(74)代理人　100092691
弁理士　黒田　勇治
(74)代理人　100199543
弁理士　黒田　隆史
(72)発明者　山本　和伸
新潟県新潟市西蒲区金池１０番地　株式会社伸和　内

審査官　中村　百合子

最終頁に続く

(54)【発明の名称】収納ケース

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

底板、左右の側板、後板からなる前面及び上面が開口した合成樹脂製の枠本体と、該枠本体の上面を覆う合成樹脂製の天板体と、該枠本体及び天板体からなる本体の前面の開口部を介して引出収納自在に設けられ、上面が開口した合成樹脂製の引出体とからなり、上記枠本体の底板の左右辺部に上記左右の側板が起立状態と該底板の上面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、かつ、上記枠本体の底板の後辺部に上記後板が起立状態と該底板の底面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、上記左右の側板及び後板の倒伏状態にあって、該枠本体の底板の上面に該左右の側板が底板の上面に沿って折畳まれると共に該枠本体の底板の底面に該後板が底板の底面に沿って折り畳まれてなることを特徴とする収納ケース。

【請求項２】

底板、左右の側板、後板からなる前面及び上面が開口した上下に積み重ね可能な複数個の合成樹脂製の枠本体と、該積み重ねられた最上位の枠本体の上面を覆う合成樹脂製の天板体と、該複数個の枠本体及び天板体からなる本体の前面の複数個の開口部を介してそれぞれ引出収納自在に設けられ、上面が開口した複数個の合成樹脂製の引出体とからなり、上記各枠本体の底板の左右辺部に上記左右の側板が起立状態と該底板の上面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、かつ、上記各枠本体の底板の後辺部に上記後板が起立状態と該底板の底面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、上記左右の側板及び後板の倒伏状態にあって、該各枠本体の底板の上面に該左右の側板が底板の上面に沿って折畳まれ

ると共に該各枠本体の底板の底面に該後板が底板の底面に沿って折り畳まれてなることを特徴とする収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、例えば一般家庭に設置されて衣類や各種小物類等を整理収納する際に用いられる収納ケースに関するものである。

【背景技術】

【０００２】

従来、この種の収納ケースとして、底板、左右の側板、後板からなる前面及び上面が開口した合成樹脂製の枠本体と、枠本体の上面を覆う合成樹脂製の天板体と、枠本体及び天板体からなる本体の前面の開口部を介して引出収納自在に設けられ、上面が開口した合成樹脂製の引出体とからなる構造のものが知られている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特許第５８５８４８８号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながらこれら従来構造の場合、上記枠本体は上記底板の左右辺部に上記左右の側板が一体又は着脱自在に立設され、上記底板の後辺部に上記後板が一体又は着脱自在に立設された構造とされ、収納ケースの運搬時や保管時等の不使用時において、前者の一体構造の場合は、嵩張って収納保管スペースが多く必要となり、又、後者の着脱構造の場合は、底板、左右の側板、後板の収納保管スペースを各別に確保する必要があり、底板、左右の側板、後板を紛失するおそれもあるという不都合を有している。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

本発明はこれらの不都合を解決することを目的とするもので、本発明のうちで、請求項１記載の発明は、底板、左右の側板、後板からなる前面及び上面が開口した合成樹脂製の枠本体と、該枠本体の上面を覆う合成樹脂製の天板体と、該枠本体及び天板体からなる本体の前面の開口部を介して引出収納自在に設けられ、上面が開口した合成樹脂製の引出体とからなり、上記枠本体の底板の左右辺部に上記左右の側板が起立状態と該底板の上面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、かつ、上記枠本体の底板の後辺部に上記後板が起立状態と該底板の底面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、上記左右の側板及び後板の倒伏状態にあって、該枠本体の底板の上面に該左右の側板が底板の上面に沿って折畳まれると共に該枠本体の底板の底面に該後板が底板の底面に沿って折り畳まれてなることを特徴とする収納ケースにある。

【０００６】

又、請求項２記載の発明は、底板、左右の側板、後板からなる前面及び上面が開口した上下に積み重ね可能な複数個の合成樹脂製の枠本体と、該積み重ねられた最上位の枠本体の上面を覆う合成樹脂製の天板体と、該複数個の枠本体及び天板体からなる本体の前面の複数個の開口部を介してそれぞれ引出収納自在に設けられ、上面が開口した複数個の合成樹脂製の引出体とからなり、上記各枠本体の底板の左右辺部に上記左右の側板が起立状態と該底板の上面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、かつ、上記各枠本体の底板の後辺部に上記後板が起立状態と該底板の底面に沿った倒伏状態とに折畳自在に配置され、上記左右の側板及び後板の倒伏状態にあって、該各枠本体の底板の上面に該左右の側板が底板の上面に沿って折畳まれると共に該各枠本体の底板の底面に該後板が底板の底面に沿って折り畳まれてなることを特徴とする収納ケースにある。

【発明の効果】

【０００７】
本発明は上述の如く、請求項１記載の発明にあっては、運搬時や保管時等の不使用時において、上記左右の側板を底板の上面に沿って折り畳むことができると共に上記後板を底板の底面に沿って折り畳むことができ、上記左右の側板及び後板の倒伏状態にあって、枠本体の底板の上面に左右の側板が底板の上面に沿って折畳まれると共に枠本体の底板の底面に後板が底板の底面に沿って折り畳まれ、左右の側板及び後板を折り畳むことにより底板、側板、後板の四部材を略平板状に折り畳むことができ、枠本体の嵩張りを防いで収納保管スペースを軽減することができ、コンパクトに収納保管することができ、運搬時や保管時等の不使用時の枠本体の収納保管を容易に行うことができ、かつ、底板、左右の側板、後板は相互に連結されているので、底板、左右の側板、後板を各別に保管する必要が無く、底板、左右の側板、後板の紛失を防止することができ、底板、左右の側板、後板を相互に組み立てる必要が無く、購入後の組立作業を容易に行うことができ、老人や要介護者にとっても容易に組み立てることができ、使用の利便性を向上することができる。
【０００８】
又、請求項２記載の発明にあっては、運搬時や保管時等の不使用時において、上記複数個の各枠本体の左右の側板を底板の上面に沿って折り畳むことができると共に上記複数個の各枠本体の上記後板を底板の底面に沿って折り畳むことができ、左右の側板及び後板を折り畳むことにより底板、側板、後板の四部材を略平板状に折り畳むことができ、上記左右の側板及び後板の倒伏状態にあって、各枠本体の底板の上面に左右の側板が底板の上面に沿って折畳まれると共に各枠本体の底板の底面に後板が底板の底面に沿って折り畳まれ、枠本体の嵩張りを防いで収納保管スペースを軽減することができ、コンパクトに収納保管することができ、運搬時や保管時等の不使用時の枠本体の収納保管を容易に行うことができ、かつ、底板、左右の側板、後板は相互に連結されているので、底板、左右の側板、後板を各別に保管する必要が無く、底板、左右の側板、後板の紛失を防止することができ、底板、左右の側板、後板を相互に組み立てる必要が無く、購入後の組立作業を容易に行うことができ、老人や要介護者にとっても容易に組み立てることができ、使用の利便性を向上することができる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明の実施の第一形態例の全体斜視図である。
【図２】本発明の実施の第一形態例の全体斜視図である。
【図３】本発明の実施の第一形態例の部分分離斜視図である。
【図４】本発明の実施の第一形態例の部分分解斜視図である。
【図５】本発明の実施の第一形態例の部分断面図である。
【図６】本発明の実施の第一形態例の部分断面図である。
【図７】本発明の実施の第一形態例の部分分離斜視図である。
【図８】本発明の実施の第一形態例の部分断面図である。
【図９】本発明の実施の第一形態例の部分断面図である。
【図１０】本発明の実施の第一形態例の部分分離斜視図である。
【図１１】本発明の実施の第一形態例の折畳状態の部分斜視図である。
【図１２】本発明の実施の第一形態例の折畳状態の説明斜視図である。
【図１３】本発明の実施の第二形態例の全体斜視図である。
【図１４】本発明の実施の第二形態例の全体斜視図である。
【図１５】本発明の実施の第二形態例の部分分離斜視図である。
【図１６】本発明の実施の第二形態例の折畳状態の部分斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
図１乃至図１６は本発明の実施の各種の形態例を示し、図１乃至図１２は第一形態例、図１３乃至図１６は第二形態例である。
【００１１】

図１乃至図１２の第一形態例において、１は枠本体であって、合成樹脂製にして、図１、図２、図３の如く、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃからなり、前面及び上面が開口した枠状に形成されている。

【００１２】

２は天板体であって、合成樹脂製にして、図１、図２、図３の如く、上記枠本体１の上面を覆って枠本体１に着脱自在に取り付けられている。

【００１３】

３は引出体であって、合成樹脂製にして、図１、図２、図３の如く、底板３ａ、前板３ｂ、左右の側板３ｃ・３ｃ、後板３ｄからなり、この場合、底板３ａの左右辺部に左右の側板３ｃ・３ｃ及び後辺部に後板３ｄを一体に形成し、底板３ａ及び左右の側板３ｃ・３ｃの前部に前板３ｂを着脱自在に取り付け、しかして、引出体３は上面が開口した容器状に形成され、上記枠本体１及び天板体２からなる本体Ｄの前面の開口部を介して引出収納自在に設けられ、上記枠本体１、上記天板体２及び上記引出体３により収納ケースＫが形成されることになる。

【００１４】

そして、図４、図１１の如く、上記枠本体１の底板１ａの左右辺部に上記左右の側板１ｂ・１ｂが図３及び図５の起立状態Ｆｂと底板１ａの上面に沿った図６及び図１１の倒伏状態Ｔｂとに側板折畳機構４により折畳自在に配置され、かつ、上記枠本体１の底板１ａの後辺部に上記後板１ｃが図３及び図８の起立状態Ｆｃと底板１ａの底面に沿った図９及び図１１の倒伏状態Ｔｃとに図４の途中位置Ｍを介して後板折畳機構５により折畳自在に配置され、上記左右の側板１ｂ・１ｂ及び後板１ｃの倒伏状態にあって、枠本体１の底板１ａの上面に左右の側板１ｂ・１ｂが底板１ａの上面に沿って折畳まれると共に枠本体１の底板１ａの底面に後板１ｃが底板１ａの底面に沿って折り畳まれるように構成している。

【００１５】

この場合、上記側板折畳機構４として、上記図４、図５、図６、図７の如く、上記各側板１ｂ・１ｂの下辺部に嵌合突片４ａを三個形成し、嵌合突片４ａの左右両側に軸部４ｂ・４ｂを突出形成し、上記底板１ａの左右辺部に上記嵌合突片４ａが嵌合する嵌合凹部４ｃが三個形成され、各嵌合凹部４ｃに嵌合突片４ａの起立状態Ｆｂを規制する規制面部４ｄが形成され、かつ、嵌合凹部４ｃに上記嵌合突片４ａの左右の軸部４ｂ・４ｂが嵌着する軸受穴部４ｅが形成され、しかして、上記側板折畳機構４により左右の側板１ｂ・１ｂは起立状態Ｆｂと底板１ａの上面に沿った倒伏状態Ｔｂとに折畳自在に構成している。

【００１６】

又、この場合、上記後板折畳機構５として、上記図４、図８、図９、図１０の如く、上記底板１ａの左右の隆起辺部５ａ・５ａの各内面に軸部５ｂ・５ｂを形成し、上記後板１ｃの左右辺部に軸部５ｂ・５ｂに嵌着する軸受穴部５ｃ・５ｃが形成され、しかして、上記後板折畳機構５により上記後板１ｃは起立状態Ｆｃと底板１ａの底面に沿った倒伏状態Ｔｃとに折畳自在に構成している。

【００１７】

６は積重安定機構であって、この場合、図１、図２、図３の如く、上記天板体２の上面に上記引出体３の引出収納方向と直交する方向に延びる凹状溝部６ａ・６ａを形成すると共に上記枠本体１の底板１ａの底面に凹状溝部６ａ・６ａに摺動自在な前後一対ずつの計四個の嵌合部１ｄ・１ｄ・１ｄ・１ｄを設けている。

【００１８】

７は連結機構であって、この場合、図示省略の上記枠本体１・１及び天板体２からなる本体Ｄを二個左右方向に並列状に連結可能に形成され、この場合、図１の如く、上記天板体２の左右辺部にそれぞれ天板係脱部２ａ・２ｂが形成され、上記本体Ｄ・Ｄを左右方向に二個並列配置し、隣接する本体Ｄ・Ｄの各天板体２・２の天板係脱部２ａ・２ｂ間に係脱摺動自在に架設される連結部材２ｃを設け、天板体２・２の左右辺部の天板係脱部２ａ・２ｂのうち、一方の天板係脱部２ａは連結部材２ｃを左右方向に突没摺動自在に配置可

能な突没係脱部２ｄに形成され、他方の天板係脱部２ｂは上記連結部材２ｃの突没摺動により係脱自在な嵌脱穴部２ｅに形成されている。

【００１９】

この実施の第一形態例は上記構成であるから、不使用時においては、図４、図１１の如く、上記左右の側板１ｂ・１ｂを図３及び図５の起立状態Ｆｂから底板１ａの上面に沿った図６及び図１１の倒伏状態Ｔｂに側板折畳機構４により折り畳むことができ、かつ、上記後板１ｃを図３及び図８の起立状態Ｆｃから底板１ａの底面に沿った図９及び図１１の倒伏状態Ｔｃに図４の途中位置Ｍを介して後板折畳機構５により折り畳むことができ、上記左右の側板１ｂ・１ｂ及び後板１ｃの倒伏状態にあって、枠本体１の底板１ａの上面に左右の側板１ｂ・１ｂが底板１ａの上面に沿って折畳まれると共に枠本体１の底板１ａの底面に後板１ｃが底板１ａの底面に沿って折り畳まれ、すなわち、図１２中（イ）・（ロ）・（ハ）・（ニ）の如く、（イ）の使用時の展開状態から（ニ）の不使用時の折畳状態に折り畳むことができ、使用時においては、（ニ）の不使用時の折畳状態から（イ）の使用時の展開状態に展開することができ、したがって、運搬時や保管時等の不使用時において、上記左右の側板１ｂ・１ｂを底板１ａの上面に沿って折り畳むことができると共に上記後板１ｃを底板１ａの底面に沿って折り畳むことができ、左右の側板１ｂ・１ｂ及び後板１ｃを折り畳むことにより底板１ａ、側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃの四部材を略平板状に折り畳むことができ、枠本体１の嵩張りを防いで収納保管スペースを軽減することができ、コンパクトに収納保管することができ、運搬時や保管時等の不使用時の枠本体１の収納保管を容易に行うことができ、かつ、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃは相互に連結されているので、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃを各別に保管する必要が無く、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃの紛失を防止することができ、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃを相互に組み立てる必要が無く、購入後の組立作業を容易に行うことができ、老人や要介護者にとっても容易に組み立てることができ、使用の利便性を向上することができる。

【００２０】

又、この場合、上記積重安定機構６により、例えば、図示省略の複数個の収納ケースＫ・Ｋ・・を積み重ねた積重状態において、上記積重安定機構６の上記凹状溝部６ａ・６ａと上記嵌合部１ｄ・１ｄ・１ｄ・１ｄとの嵌合により、それぞれ上段の収納ケースＫの前側への滑り落ちを防ぐことができ、積み重ねの安定性を高めることができ、かつ、積み重ね状態の安定を維持しつつ収納ケースＫの幅方向、すなわち、引出体３の引出収納方向と直交する左右方向の相互の配置位置を容易に変更することができ、積み重ねの配置位置の融通性を高めることができ、各種の使用態様、設置位置、各種の収納物等に応じて積み重ねの配置位置を変えることができ、収納ケースＫの使用位置の融通性及び快適性を高めることができる。

【００２１】

又、この場合、上記連結機構７により、例えば、図示省略の二個の収納ケースＫ・Ｋを左右方向の並列状態に連結することができ、設置の融通性及び使用の利便性を高めることができる。

【００２２】

図１３乃至図１６の第二形態例は別例構造を示し、この場合、図１３、図１４、図１５、図１６の如く、上記第一形態例と同様な底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃからなる前面及び上面が開口した上下に積み重ね可能な二個の合成樹脂製の枠本体１・１と、積み重ねられた最上位の枠本体１の上面を覆う上記第一形態例と同様な合成樹脂製の天板体２と、二個の枠本体１・１及び天板体２からなる本体Ｄの前面の二個の開口部を介してそれぞれ引出収納自在に設けられ、上面が開口した二個の合成樹脂製の引出体３・３とからなり、上記各枠本体１・１の底板１ａ・１ａの左右辺部に上記左右の側板１ｂ・１ｂが起立状態Ｆｂと底板１ａの上面に沿った倒伏状態Ｔｂとに折畳自在に配置され、かつ、上記枠本体１・１の底板１ａ・１ａの後辺部に上記後板１ｃ・１ｃが起立状態Ｆｃと底板１ａ・１ａの底面に沿った倒伏状態Ｔｃとに折畳自在に配置され、上記左右の側板１ｂ・

１ｂ及び後板１ｃ・１ｃの倒伏状態にあって、各枠本体１・１の底板１ａ・１ａの上面に左右の側板１ｂ・１ｂが底板１ａ・１ａの上面に沿って折畳まれると共に各枠本体１・１の底板１ａ・１ａの底面に後板１ｃ・１ｃが底板１ａ・１ａの底面に沿って折り畳まれ、いわゆる二段式の収納ケースＫとして構成している。

【００２３】

かつ、第二形態例においても、上記側板折畳機構４、上記後板折畳機構５は同様な構造が採用され、かつ、上記積重安定機構６及び上記連結機構７を採用している。

【００２４】

この実施の第二形態例にあっても、図１６の如く、上記第一形態例と同様に、運搬時や保管時等の不使用時において、上記二個の各枠本体１・１の左右の側板１ｂ・１ｂを底板１ａの上面に沿って折り畳むことができると共に上記二個の各枠本体１・１の上記後板１ｃを底板１ａの底面に沿って折り畳むことができ、上記左右の側板１ｂ・１ｂ及び後板１ｃの倒伏状態にあって、枠本体１の底板１ａの上面に左右の側板１ｂ・１ｂが底板１ａの上面に沿って折畳まれると共に枠本体１の底板１ａの底面に後板１ｃが底板１ａの底面に沿って折り畳まれ、左右の側板１ｂ・１ｂ及び後板１ｃを折り畳むことにより底板１ａ、側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃの四部材を略平板状に折り畳むことができ、枠本体１の嵩張りを防いで収納保管スペースを軽減することができ、コンパクトに収納保管することができ、運搬時や保管時等の不使用時の枠本体１の収納保管を容易に行うことができ、かつ、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃは相互に連結されているので、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃを各別に保管する必要が無く、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃの紛失を防止することができ、底板１ａ、左右の側板１ｂ・１ｂ、後板１ｃを相互に組み立てる必要が無く、購入後の組立作業を容易に行うことができ、老人や要介護者にとっても容易に組み立てることができ、使用の利便性を向上することができる。

【００２５】

尚、本発明は上記実施の形態例のものに限られず、例えば、枠本体１の数、段数、大きさ、天板体２の形状、引出体３の個数、構造は用途に応じて定められるものである。

【００２６】

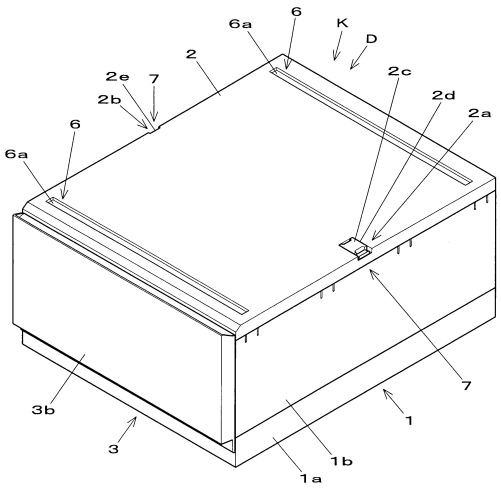
以上の如く、所期の目的を充分達成することができる。

【符号の説明】

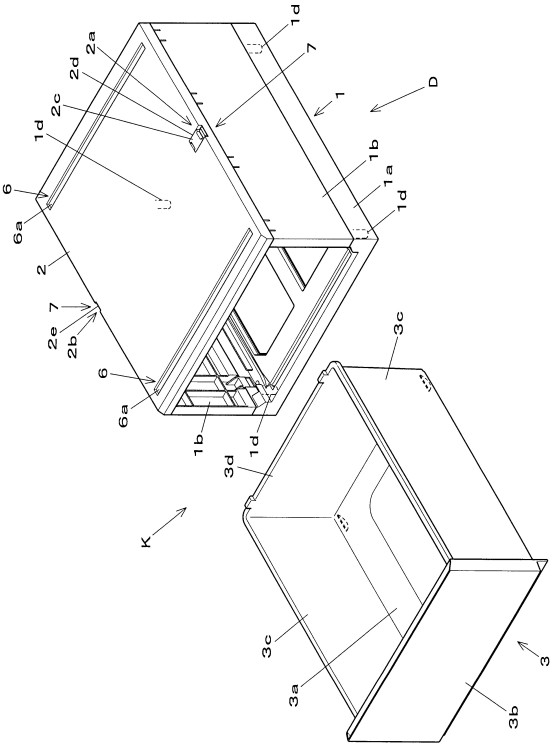
【００２７】

Ｋ　収納ケース
Ｄ　本体
Ｆｂ　起立状態
Ｔｂ　倒伏状態
Ｆｃ　起立状態
Ｔｃ　倒伏状態
１　枠本体
１ａ　底板
１ｂ　側板
１ｃ　後板
２　天板体
３　引出体

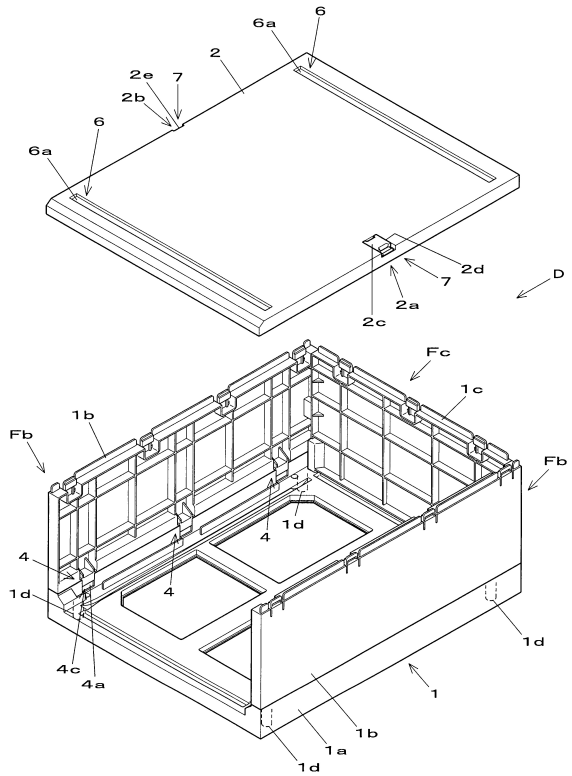
【図１】


6a
6
K
D
2
2e
7
2b
2c
2d
2a
6
6a
7
3b
1
3
1b
1a

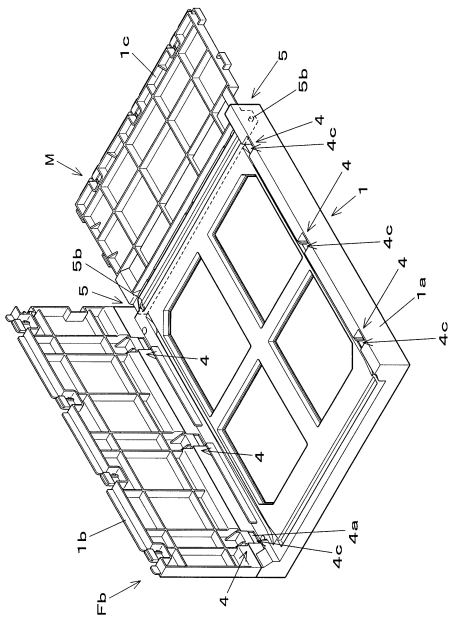
【図２】


1d
7
2a
2d
1
D
2c
1d
1b
1a
6
1d
6a
2
7
2e
2b
3c
6
6a
1b
1d
3d
K
3c
3
3a
3b

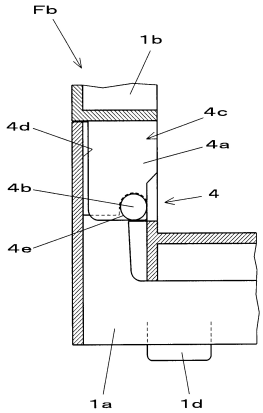
【図３】


6a
6
2
2e
7
2b
6
6a
2d
7
D
2a
2c
Fc
1c
1b
Fb
Fb
4
1d
4
4
1d
4c
4a
1d
1
1b
1a
1d

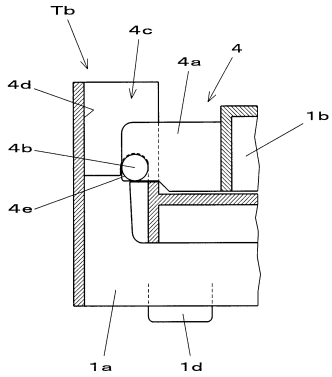
【図４】


1c
5
5b
4
4c
M
4
1
4c
5b
4
5
1a
4c
4
4
1b
4c
4a
Fb
4

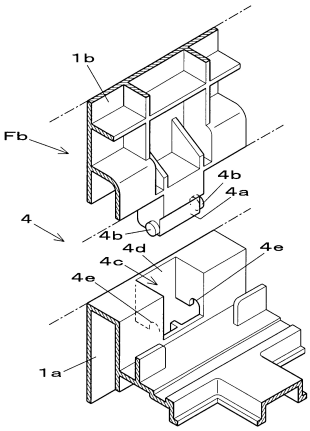
【図５】



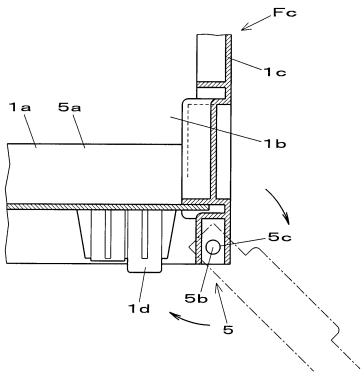
【図６】



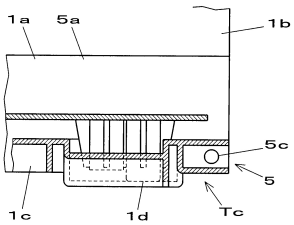
【図７】



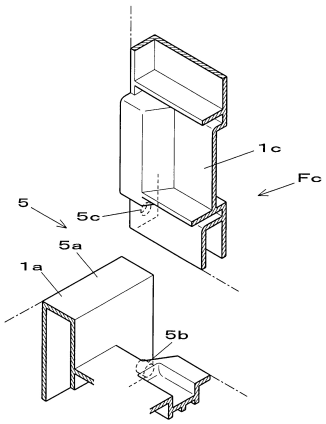
【図８】



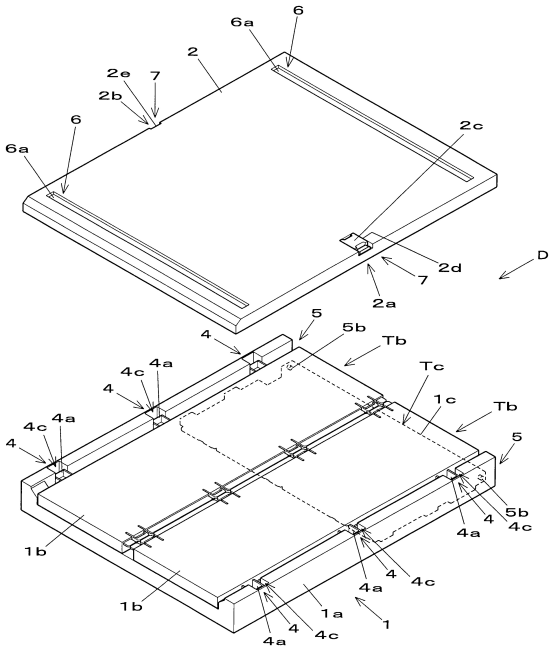
【図９】



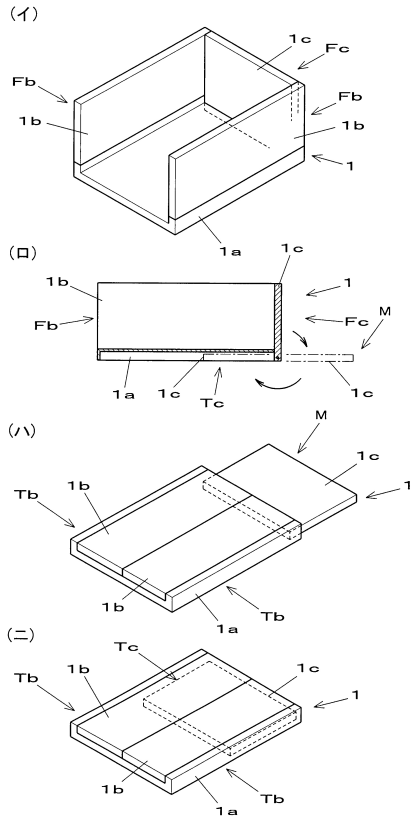
【図１０】



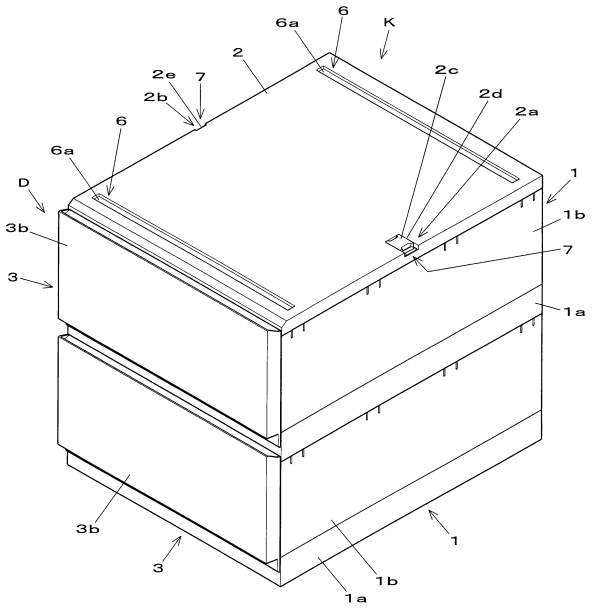
【図１１】



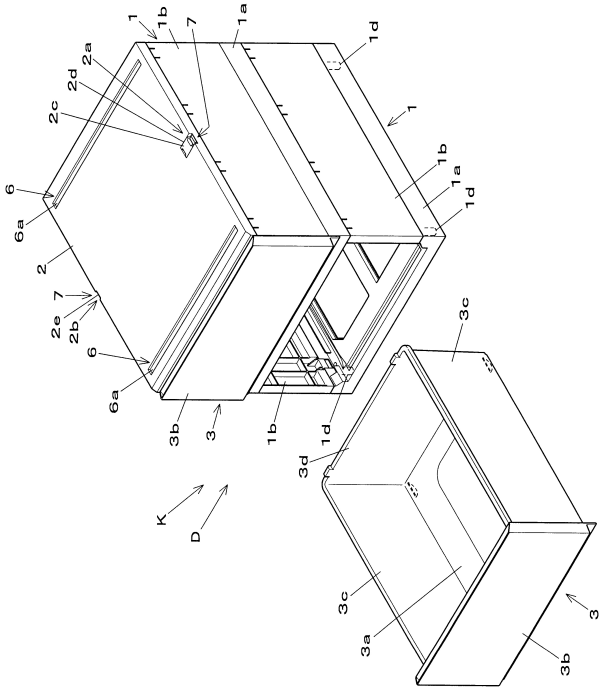
【図１２】



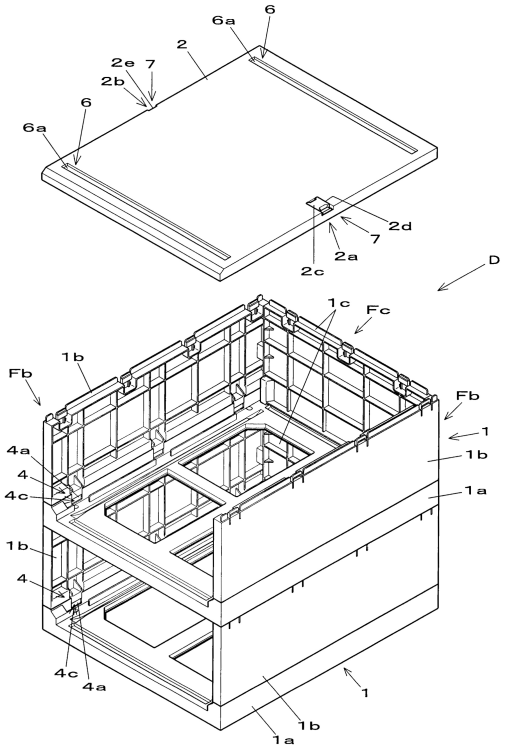
【図１３】



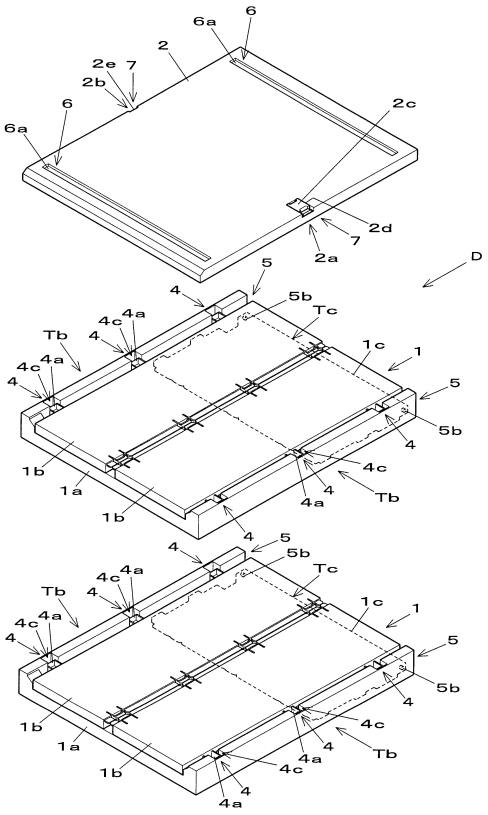
【図１４】



【図１５】



【図１６】


6
6a
2
2e
7
2b
6
6a
2c
2d
7
2a
D
5
4
5b
Tc
4c
4a
Tb
4
1c
1
5
5b
4
4c
4
4a
Tb
1b
1a
1b
4
5
4
5b
Tc
4c
4a
Tb
4
1c
1
5
5b
4
4c
4
4a
Tb
1b
1a
1b
4c
4
4a

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２０１５－０１２９５４（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－０８００３８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｂ ６７／０４
Ａ４７Ｂ ８７／００－８８／９９４
Ｂ６５Ｄ １９／００－１９／４４
Ｂ６５Ｄ ６／００－１３／０２